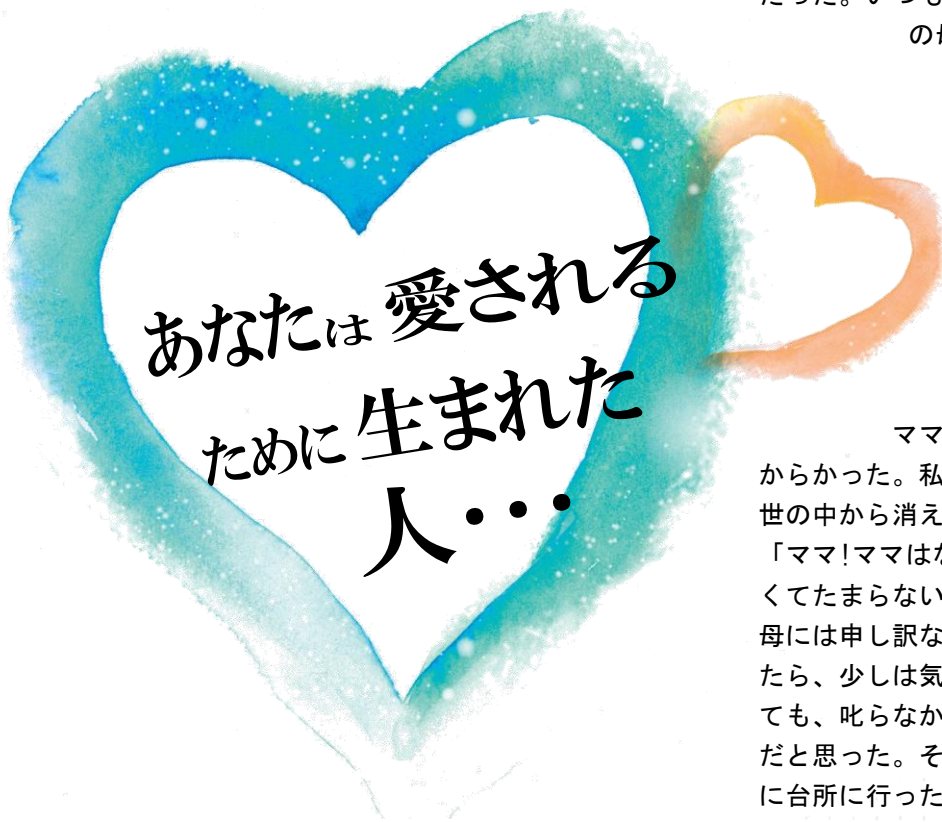


◎幸せな贈り物



片目がない母

今年の5月にスマートフォンに飛びこんできた映像を見て、母のまことの愛がどのようなものかを考え直すようになりました。この映像は、ネチズンが2003年に最高の感動を与えたという理由で採択した文章を元に構成されたものでしたが、家族が崩れていくこの時代に、家族と親の大切さを悟らせる映像で、多くの学校で人間性教育資料として活用されています。その内容はこのようです。

私の母には片目がない。私はそのような母が嫌いだった。いつも他の人の笑いものになったので…私の母は市場で小さい露天商をしていた。ナムルのようなものを道で売っていた。私は母のそのような姿さえも本当に恥ずかしかった。

私が小学校の時の運動会の日だった。その日、よりによって母が学校に来た。私は恥ずかしくて身を置くところが分からないで飛び出した。翌日、学校に行ったとき、子どもたちが「〇〇のママは目がない足りない人だ!」と云ってからかった。私は、いじめの種になった母がいつ世の中から消えてしまったら良いと思って言った。「ママ!ママはなぜ片目がないのか。本当に恥ずかしくてたまらない!」でも、母はなにとも言わなかった。母には申し訳なかったが、言いたいことを吐き出したら、少しは気が晴れた。母は私がそのように言っても、叱らなかったので、それほど心が痛くないのだと思った。その日の夜、眠りから覚めて水を飲み、台所に行ったところ、母が泣いていた。私は母が泣く姿を何もないように無視したが、屋間に鋭く言い放ったことばゆえに、少しは申し訳なかった。しかし、片目で涙を流しながら泣く母の姿は本当にいやだった。

私は将来、大人になって必ず成功しようと心に決めた。貧しい環境も嫌いで、片目がない母も嫌いだったので、私は恥ずかしくて劣悪な私の環境が嫌いで、一生懸命に勉強した。その後、母を離れてソウルに出て、さらに勉強して堂々とソウル大に合格した。歳月が流れて、私は結婚をして、家と子どももできた。私、妻、そして子ども三人で仲むつまじくて幸せだ。家庭を設けて、母の存在を忘れてしまっていたので良かったのだ。

そのようなある日、ひとりのおばさんが家に訪ねてきた。「どなたですか」「…」それは私の母であった。

片目がないままで醜く立っている母!私は母が亡くなったと嘘をついていた。それで、瞬間、知らない人だと無視してしまった。そのとき、子どもが怖いと言って泣いた。私は誰が人の家に来て子どもを泣かせるのかとむしろ怒った。少ししてから、私は出張に行くという言い訳で、同窓会に行こうと故郷に行った。同窓会が終わって、気になる心で、母の家に立ち寄った。ところが、母が倒れていたのだ。倒れた母の姿にも、私は涙一滴出てこなかった。母のそばには手紙が落ちていた。

「愛する息子。母はもう去るときがきたみたい!もうソウルに行かない…それでも、あなたが時々きてくれないといけないの?私は息子にとても会いたい。私はあなたが同窓会にくるという知らせを聞いてとてもうれしかったの。でも、学校に訪ねて行かないようにした。あなたを思って…そして片目がなくて、本当にあなたには申し訳ない思いだけです。あなたが幼かったとき、交通事故で片目を失ったの。私は片目をなくしたあなたをただ見ていることはできなかった。それで私の目をあげたの。その目で世の中を堂々と生きていくあなたは、とても立派だった。私はあなたを一度も嫌ったことはないよ!あなたがときどき、私に癩癩を起こしたのは、心を落ち着かせるためだと思っていた。息子、私の息子よ!母が先に行くと泣いてはいけないよ。絶対に泣かないで!愛しています。私の息子…」

突然、わけの分からない痛みが胸を走った。そして…涙がほとばしった。「お母さん、愛する私のお母さん!なぜこれまで言うてくれなかったの。愛するという言葉も言ってあげられなくて…おいしいものを食べさせてあげることもできず、よい服を着せてあげることもできず、本当にごめんなさい!愛しています。お母さん!そして…ありがとう。お母さんが足りない人だったのではなく、ぼくの心が足りなかったということがやっとわかった。このみにくい者を許してください!お母さん、愛しています!お母さん」

.....

人間を人間らしくする最も大切な価値は愛だと言われています。その愛の中にはいのちに対する献身と相手に対する配慮が含まれているためです。神様は、この人間を、愛されるために生まれた存在として造られ、今でもその愛を与えることを願っておられるという事実を知っていますか。聖書ヨハネの手紙第一 4章7節から11節を見ると、このようなみことばが出てきます。「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」

愛された人が愛することができます。

神様の愛は人間にこのように現されました。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネの福音書 3:16)それで、キリストを送って、神様の愛をあきらかにしてくださいました。「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ人への手紙 5:8)

神様の愛は人間自身では解決できない問題を解決してくださる愛です。神様を離れた原罪と、それによる滅びの中で生きなければならないすべての人間が神様に会う道を開いてくださる愛です。罪によるのろいと災いを十字架の死で永遠に解決してくださった愛です。そして、死から復活されて、今でも生年月日による運勢と運命で人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン(悪魔)のすべての権威を完全に滅ぼされた愛です。「キリスト(Christ)」が「イエス(Jesus)」なのです。英国の詩人ギルズ・フレッチャー(Geils Fletcher)は、イエス・キリストの愛をこのように描写しました。「道に迷った者に、その方は道です。ポロを着た者に服であり、飢えた者に食べ物です。縛られた者に自由であり、弱い者に強さです。死んだ者に生で、病気の者に剛健であり、目が見えない者に光で、貧しい者に富です。再び失わない楽しみであり、盗まれない宝物です。」神様はこの愛をあなたに与えたいと願っておられます。



神様の要求

聖書が語っている神様は、創造主で、万物を治める支配者で、人生の生死、災いと祝福に対する主権を持っておられる方であると言われています。それで神様のみこころを知って、神様のみこころに従順にするのが信仰生活を一番上手にすることだと語られます。それなら、神様のみこころとは何でしょうか。神様は暗やみの中に陥っているイスラエル民族を出エジプトさせられました。言い換えれば、サタンと罪悪から完全に救われたということです。そして、出エジプトしたイスラエルが荒野の道を通り過ぎる間に、みな失敗してほろびるはずだと言われていたのですが、彼らは失敗しなかったのです。その理由は、神様が願っておられる福音を握ったためです。今でも神様はすべての人が福音を回復して正しい生活の祝福を味わうことを願っておられます。福音とはなんでしょうか。人間のすべての問題を解決した答えです。私たちの過去、現在、未来がすべて解決されることです。また、福音はすべての問題解決だけでなく、永遠な問題解決です。そして、福音は私たちをサタンの権威から完全に救い出したのです。コロサイ人への手紙1章13節を見れば「神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」とされています。神様の子どもは、この世を生きる間、福音中心の生活を送らなければなりません。サタンは人間の生き方を利用して、非難して罪に定めるようにさせて、福音を誤解させます。それで、下手すると教会に通う人が非社会的で律法的になって、落伍するようになります。そして律法に縛られて、葛藤して罪の意識に捕われて、反社会的に生きていくこともあります。しかし、神様の子どもは、まことに社会的であり、完全福音を持った福音主義で生きていかなければなりません。

あるイエスを信じる青年が職場にはじめて入りました。人々を見れば、大部分が仕事が終わったら飲み屋に行って遊んで帰ります。この青年と一緒に話しました。「私はクリスチャンなので酒を飲まないのではない。体質的に飲むことができない。しかし、みなさんを尊重するためにきた」これが社会的なことです。それとともに「みなさんを手助けしたい」と言いました。そして、いっしょに座っていて2つのことを感じたということです。酒に酔った話を聞いてみたら、すべてオーバーするので狂いそうだったということです。もう一つ感じたことは「このようにして、この人たちが人間関係が形成されるんだな。私は本当に疎外される場所だったな」それを感じたということです。それで、この人は、集いがみな終わったあと、酒に酔った人をみんな車で家に連れていきました。その方たちが言ったらお手伝いをしました。少ししてから、その人々が青年に相談しにきながら生かされ始めたのでした。

神様の子どもらしくすれば良いのです。未信者が見て素晴らしいという気がするようになります。信仰は、最高の座に留まるようにしながら、心は最も低いところから始めれば良いのです。そして、神様の時刻表を待ちながら福音を伝えれば、神様がすべてのこと責任を負ってくださいます。これが聖書が語っている神様の子ども姿です。



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださいましたキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



最近、人々がよく聞く言葉が異端ということばだ。異端は、漢字の意味では終わりが異なるということだ。ある団体や意見の主張に対して、初めと終わりが違って、人を惑わすという意味で異端ということばを使う。そのような意味で見るとき、すべての団体や意見で異端を見ることができる。

異端の本来の意味は「感情に流れる傾向に従った取捨選択や見解」という意味だ。本質があるが、その原則を抜け出した行動と意見は、また別の発展の機会を与えるので、一般的な意味で異端はすてきな表現だ。ところで異端が問題になるのは、特にキリスト教団体でこの用語をととても乱発して、異端的に使うためだ。キリスト教は、本来の意味、すなわち教会が定めた教理があるのだが、その枠組みを出ることを異端だと規定する。一般的な意味としての異端は、発展の可能性として受け入れるが、キリスト教での異端は原則を抜け出したので問題だと感じられる。なぜなら、福音は時代と状況によって動く鉛筆で書く愛の手紙でなく、絶対に変わることがない神様の愛の表現であるためだ。それで、教会が定めた教理の枠である本質を抜け出せないように防ぐのだ。キリスト教で異端として見るのは、三位一体の神様を否認したり、キリストの神聖を拒否したり、イエス・キリストのあがないの死とからだの復活、再臨およびキリストが神様の子であることを否認することだ。

しかし、異端だと定罪することは、かなり重要なことなので、いくつかの原則がある。最初に、歴史的キリスト教の普遍的真理をわい曲させるグループや団体。二つ目、聖書の明白な教えを否定するグループや団体。三つ目、聖書の基本的教理を否定したり、誤って解釈するグループや団体。四つ目、聖書

異端とはなんですか？

の内容を追加したり抜いたりするグループや団体などだ。結局、意見を主張する者や異端だと判断する人が完全でないために、異端の規定は、誤った主張に対し繰り返し警告を受けたのに、ついに元に戻さない者に対して下される教会の公的決定と言える。それでも、人々は異端に傾く。その理由は、サタンの偽装戦略で、やみを光で包んだため、汚い利益を追求するためだ。好奇心から始まるが、聖書を疑うので別の福音、別のキリストに引きずられる。また、現代人の知性と感情に訴えて科学的判断で信仰を解体する。さらに聖書をよく教えるということであるが、彼らは正統を抜け出した偽りの教訓に立って聖書を誤って解釈するのだ。それで、使徒パウロは、天使であっても、別の福音を伝えればのろわれると言った。

それでは、私たちはどのように福音を理解して福音の中に案内してもらえるのだろうか。異端はキリスト教が初めて福音の働きを成し遂げた時から存在してきた。結局、完全滅亡からの人間の救いが神様の絶対計画なのに、サタンはでたらめな論理でたましいをハンティングして、完全滅亡に案内する。昔の王たちが食事した時に、銀の箸で食べ物の毒を調べたように、多くの人々の論を持ったキリスト教の異端やキリスト教徒の振る舞いをする人々に、私たちは福音の正確な定義を差し出さなければならない。それは「イエスはキリスト(使徒5:42)」だ。他の人々が異端と言っても、イエスがキリストと話せれば、その人は異端でなく、どんなに素敵な教会に通うキリスト教徒でも、イエスがキリストと話せなければその人は異端だ。どんな主張より福音が先に現れなければならないためだ。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ